

公表

事業所における自己評価結果 (児童発達支援)

事業所名	OZデイしゅうなん				公表日	R8 年 2 月 20 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		午前中はご利用者様の人数が少ないので、ゆったりとしたスペースを確保できている。放課後デイサービスのご利用者さまと一緒に活動できる時間も大切にしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用日が多い日に職員の人数を多く配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		重心医療的ケアがメインの事業所で、自力で移動したり、車椅子を操作できる子どもはいないので。特に困ることはない。	荷物が多くなりがちなので、怪我や忘れ物がないよう、整理整頓をこまめに行うようにする。食事。活動は同じ部屋で行っており。構造化するまでに至っていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		感染症に弱い利用者様は場合に応じて別室対応を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		メインの支援室と別室を設けて使用している。	動線が良くないので、もっと活用できるようにしたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6			小さい法人のため、スタッフが安定して働けるような法人の仕組みを作ることから始めた。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		スタッフと共有するようにしている。	全ての利用者様のニーズを満たすのは難しいと感じることがある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は行っていない。	必要性があれば取り入れたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	施設の強みである医療的ケアの研修などに参加している。業務終了後に研修を行う機会がある。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		WEBにて好評を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		他職種で連携をとりながら、行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		他職種で連携をとりながら、行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		他職種で連携をとりながら、行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		インフォーマルなアセスメントを主に行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインの項目に沿っている。	ガイドラインの項目に沿っているが、達成が難しい項目もある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		複数人・他職種と相談して行っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		複数人・他職種と相談して行なっている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		複数人・他職種と相談して行なっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		複数人・他職種と相談して行なっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		共有の携帯ツールにて、注意や振り返りを行うことができる。毎日行っていない。	始業や終業の時間が取れるよう工夫したいが、送迎が時間がかかり、難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		小さな変化も見逃さないように、できるだけ細かく記録をとっている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		複数人・他職種と相談して行なっている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達管理責任者が同席するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		協力・連携ができています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			今年度は移行する予定の児がいなかったが、利用される方が、来年から保育園に通称予定のため、情報共有できるよう、しっかりと自情報をまとめておきたい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		今年度は移行した児童がいなかった。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		必要な時は連携を取っている。	積極的に助言・指導を受けてみたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		旭ヶ丘幼稚園からお誘いを受け1ヶ月に1回、誕生日会に参加させていただいている。	感染症に注意が必要だが、今後も続けていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		重心医療的ケアが中心の事業所であり、ペアレントトレーニングは行っていない		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		報酬改定や契約の際、行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			子どもと意思疎通が難しいと感じている。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。			得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		今後の見通しについて不安に思われるご家族には積極的に相談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		今年度は未開催。年度末に行う予定。	近年、一年中感染症の流行があり、ご家族も忙しく、交流するのが難しくなっている。ZOOM開催も検討してみる。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速な対応を心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		Instagramやフェイスブックで活動の様子を知ることができる。また公式のLINEがあり、保護者さまに限定したお知らせを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		公式のLINEがあり、保護者さまに限定したお知らせを発信している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		住民の方々に認知していただけるように、年度変わりなどにご挨拶させていただいている。	施設に来ていただくことは難しいが、地域の皆様にはよくお声かけいただき、運営に協力していただいている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			ご家族に対しての周知ができていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		消防と訓練を行った。救急時はPA体制にて搬送を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		確認を行い、発作時の対応をまとめている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		現在、児童発達支援に食物アレルギーの子どもの利用はないが、放課後デイではそのように対応を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	家族への周知ができていない	公式LINEやお知らせで周知を行う
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		日々の日誌にて共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		現在、身体拘束に該当するような事例はない。		